

アーツ前橋 開館 10 周年記念展

ニューホライズン 歴史から未来へ

2023 年 10 月 14 日 [土] → 2024 年 2 月 12 日 [月・祝]

アーツ前橋、白井屋ホテル、まえばしギャラリー、HOWZE ビル、スズラン前橋店 他



レフィーク・アナドール 《Living Paintings Immersive Editions: Artificial Realities: Winds of LA / Pacific Ocean / California Landscapes.》

撮影：Joshua White Courtesy Jeffrey Deitch, New York and Los Angeles.

変容する都市とアートをめぐる、ミュージアムの新たな挑戦。

群馬県前橋市の公立美術館アーツ前橋は、前橋市中心市街地の商業施設を改修した美術館として 2013 年 10 月にオープンし、今年で 10 周年を迎えます。開館以来、市民とアーティストによる文化芸術活動の拠点として、多くの展覧会と地域アートプロジェクトを実施してきました。また街の中心部に立地していることから、アートによる賑わいの創出や、空洞化が進む中心市街地の活性化も期待されてきました。本展「ニューホライズン 歴史から未来へ」は、これまで市民と共に歩んできたアーツ前橋の文化芸術活動を土台に、街とミュージアムの“次の 10 年”に向けた新たな協働をひらくプログラムです。アーツ前橋をメイン会場に、再開発が進む周辺の施設やコミュニティと連携して、空きビルやテナントを活用したイマーシブなデジタルアートや演劇公演、歴史建築の魅力を引き出すプロジェクトマップ、子どもたちとアーティストによる野外彫刻の共同制作など、多彩なアート活動を展開いたします。

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展実行委員会事務局（アーツ前橋）
学芸担当 高橋/庭山
●取材・掲載に関するお問い合わせ TEL:027-230-1144
PR担当 酒井/石井 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

●広報画像はこちらより
ダウンロードください



特別館長・南條史生が自らディレクション。

開催テーマは「ニューホライズン」。

私はアーツ前橋を展示や収集活動だけでなく、街づくりや地域産業の発展にも貢献する、市民生活と共にある美術館にしたいと考えています。目指すのは前橋市民が誇りをもてる、街のシンボルとなる美術館です。そこで私たちアーツ前橋は“次の10年”への幕開けとして、街とアートが共に発展していくビジョンを表す展覧会「ニューホライズン 歴史から未来へ」を、開館10周年記念事業として開催します。本展では国際的に活躍するアーティストを前橋に招聘し、彼らのアート活動を美術館から街なかへと広げていきます。ローカルとグローバルが混ざり合い、伝統と現在が交差するなかから、新しい地域文化をここ前橋から創造・発信していきます。これらの活動は、前橋が掲げるまちづくりビジョン「めぶく。」に基づく周辺地域の再開発と連携することで、街とアートが互いの可能性を引き出していく取り組みになるでしょう。

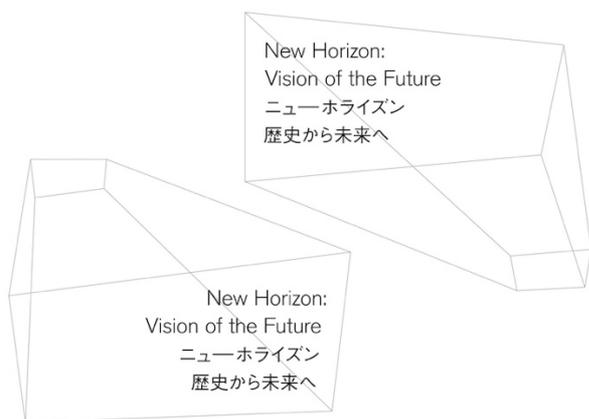
南條史生（前橋市文化芸術戦略顧問・アーツ前橋特別館長）



南條史生……1972年慶應義塾大学経済学部、1977年文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。国際交流基金を経て、2002年より森美術館立ち上げに参画、2006年11月から2019年まで館長、2020年より同館特別顧問、十和田市現代美術館総合アドバイザー、弘前れんが倉庫美術館特別館長補佐、2023年5月からアーツ前橋特別館長。1990年代末よりヴェニスビエンナーレ日本館を皮切りに、台北ビエンナーレ、横浜トリエンナーレ、シンガポールビエンナーレ、茨城県北芸術祭、ホノルルビエンナーレ、北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs等の国際展で総合ディレクターを歴任。著書として『アートを生きる』（角川書店、2012年）等

展覧会ロゴと公式ポスターは上西祐理氏によるデザイン。

本展テーマの「ニューホライズン」が、2Dのフラットな水平線イメージだけでなく、前橋のさまざまな空間や状況にリンクしながら3D的に「新しい展望・視野・領域」へとひろがっていく可変性を表現しています。



上西祐理……アートディレクター/グラフィックデザイナー。1987年生まれ。東京都出身。2010年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業、同年電通入社、2021年独立、北極設立。今までの仕事に、「世界卓球2015」ポスター（テレビ東京）、「Futures In-Sight」展（21_21 Design Sight/2121年）、雑誌『広告』（博報堂）、「LAFORET GRAND BAZAR SUMMER 2018 & 2019」（LAFORET HARAJUKU）、「#SHEMOVESMOUNTAINS」（THE NORTH FACE）など。主な受賞歴として東京ADC賞、JAGDA新人賞、JAGDA賞、CANNES LIONS金賞、NYADC金賞、D&AD Yellow Pencilなど。趣味は旅と雪山登山。旅は現在42カ国達成。



※デザインの展開案

[参加作家と会場 - アーツ前橋]

「鑑賞」から「体験」へ。現代アートの巨匠と新鋭が共演。

本展のメイン会場となるアーツ前橋では、6つのギャラリーをゆったり使い17組のアーティストの作品を展示。人工知能による空間デザインで世界的な注目を集めるレフィーク・アナドルなど現代アートの開拓者たちに加え、本展では日本のアートシーンで台頭する若手ペインターたちに注目。古典的な「絵画」領域を拡張するエネルギッシュな筆致が、鮮烈な絵画体験をもたらします。

アーティスト=井田幸昌、岡田菜美、オラファー・エリアソン、川内理香子、五木田智央、蔡國強、ザドック・ベン=デイヴィッド、ジェームズ・タレル、スプツニ子！、武田鉄平、袴田京太郎、ビル・ヴィオラ、松山智一、山口歴、横山奈美、403architecture [dajiba]、レフィーク・アナドル



レフィーク・アナドル

《Living Paintings Immersive Editions: Artificial Realities: Winds of LA / Pacific Ocean / California Landscapes.》

撮影：Joshua White Courtesy Jeffrey Deitch, New York and Los Angeles.



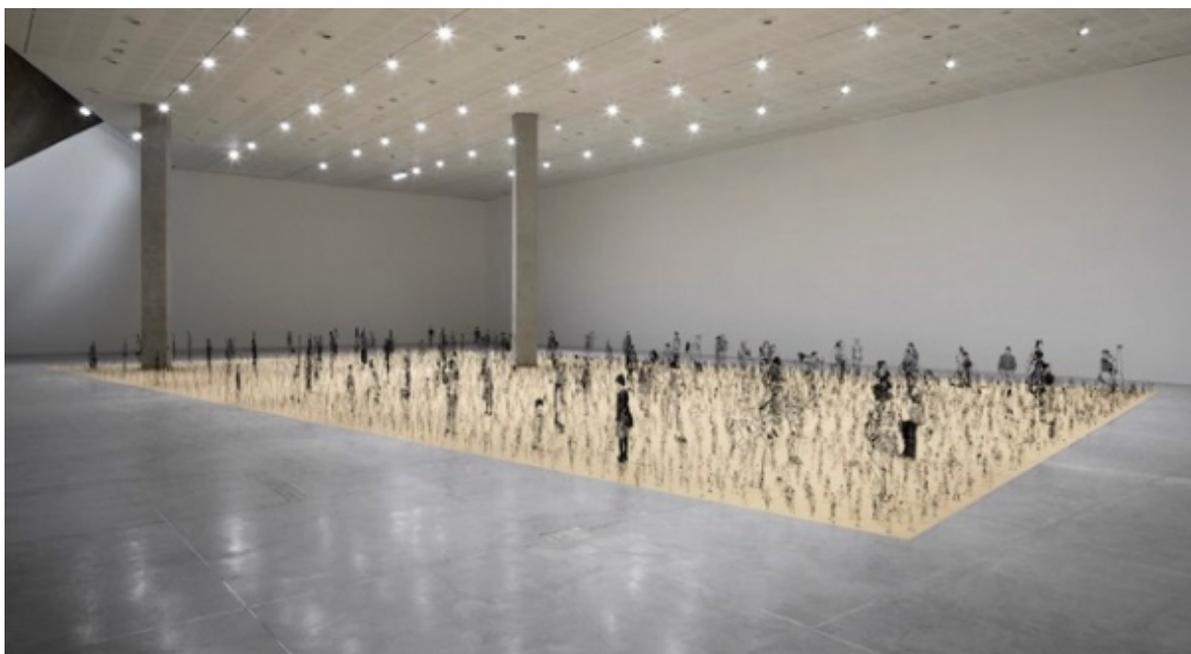
山口歴《MÖBIUS NO.17》 撮影：浦野航気 ©2021 MEGURU YAMAGUCHI, GOLD WOOD ART WORKS



スプツニ子！《Tranceflore》 撮影：So Morimoto



横山奈美《Shape of Your Words -W.K.-》 撮影：若林勇人



ザドック・ベン=デイヴィッド《People I Saw But Never Met》



松山智一《Turn Up Remember》 ※参考作品



武田鉄平《絵画のための絵画 044》

[参加作家と会場 - 前橋市中心市街地]

感性と創造力が「めぶく。」 周辺の新建築群も必見のアート。

アーツ前橋の周辺では、前橋のまちづくりビジョン「めぶく。」に基づき、「白井屋ホテル」や「まえばしギャラリー」など、新進気鋭の建築家による施設のオープンが続いており、本展会期中もいくつかの建築が完成予定となっています。本展では彼・彼女らスター・アーキテクトによる建築表現にも着目し、アートを身近に感じさせてくれるその空間の魅力を、街歩きツアーや各施設との連携展示で紹介していきます。



《白井屋ホテル》藤本壮介建築設計事務所 撮影：木暮伸也



《まえばしギャラリー》平田晃久建築設計事務所 撮影：木暮伸也



岡本太郎《太陽の鐘》 設置場所のランドスケープデザインは藤本壮介建築設計事務所



永山祐子建築設計《マチナカテラス（前橋デザインプロジェクト）》



「403architecture [dajiba] / 椅子の場所は決めることができる」展示風景
撮影：木暮伸也

新旧の建築と暮らしが交差する再開発エリアに多彩なアートを設置。
作品をめぐりながら変容する都市と最先端のアートを体感する。

見どころ③ | スター・アーキテクトの建築というだけでなく、良質なアートに触れられるスポットとしても注目を集める「白井屋ホテル」と「まえばしギャラリー」。ともに本展開催にあわせた展示作品が追加・公開されます。



蜷川実花 《残照/Eternity in a Moment》 ©mika ninagawa



WOW 《Refraction》

見どころ④—HOWZE ビル | 入口にある彫刻の形状から「ゲーチョキパービル」と呼ばれる繁華街の7階建ビル。長らく空きビルでしたが本展で3フロアを特設会場として活用。アートによる賑わい創出の拠点化を目指します。



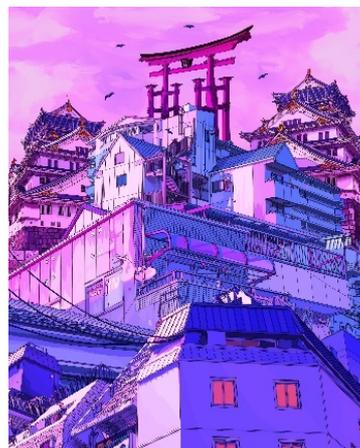
WOW の展示予定作品



蜷川実花の作品 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery



ハシグチリントロウ 《even destruction》



マッド・ドッグ・ジョーンズ
《Dream Castle》



川内理香子 《organ》
撮影：Keita Otsuka ©Rikako Kawauchi
Courtesy of the artist and WAITINGROOM

見どころ⑤ | 4組のアーティストが「中央通り商店街」を起点に、アーケード街を活動拠点とする地元クリエイターや、老舗の百貨店とアートプロジェクトを協働。街とアートが互いの可能性を引き出していきます。



アンドリュー・ピンクリー 《Stone Cloud》



木原共 《Future Collider》

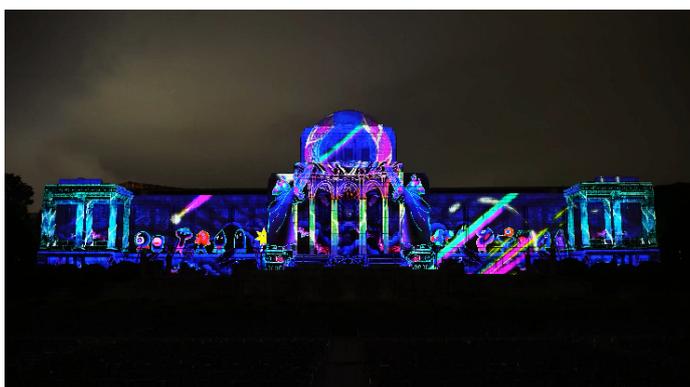


マームとジブシー 《Light house》 撮影：岡本尚文



関口光太郎 《SUN TOWER2020/MAQUETTE》

見どころ⑥ | プロジェクションマッピングの第一人者・石多未知行がプロデュースし、国際大会で活躍するアジアのトップ映像クリエイターチームをタイ、インドネシア、マカオから招聘。10/27（金）、10/28（土）、10/29（日）の3日間、群馬県庁昭和庁舎の前面を使った大規模なプロジェクションマッピングイベントを実施します。



《1minute Projection Mapping Competition 2022》

[イベントプログラム]

”この街の未来“をともに考え・ともにつくるプログラムを。

本展では未来の街づくりを担う若者や子どもたちに創造的な学びの機会をひらきます。前橋生まれの演劇作家・藤田貴大が主宰する劇団「マームとジプシー」、欧州で注目される新鋭のメディアアーティスト木原共、ガムテープと新聞紙によるユニークな彫刻活動で知られる関口光太郎らが、前橋の街を舞台に地域の人々との共同制作やワークショップをひらきます。



藤田貴大 撮影：井上佐由紀

01- 藤田貴大「マームとジプシー」演劇公演

前橋市民に愛される老舗百貨店スズランの新館3階が劇場空間に変容。

実施日：10/28（土）、10/29（日）、12/23（土）、12/24（日）

会場：スズラン前橋店 新館3階

02 - 村田峰紀 路上パフォーマンス《Neck Live》

「手も足も出ない」状態で描き出す、渾身の風景スケッチ。

実施日：10/14（土）、11/3（金祝）、11/4（土）、11/5（日）

会場：前橋市中央通り商店街



村田峰紀《Neck Live》

03 - 木原共 AR ワークショップ《Future Collider》

「あり得るかも知れない未来」をARを駆使して問いかける未来授業。

実施日：11/25（土） 会場：前橋市中央通り商店街

04 - 石多未知行 映像ワークショップ《horizontal line》

1本の線から想像力を解き放つプロジェクションマッピング体験教室。

実施日：1/20（土） 会場：アーツ前橋（予定）



関口光太郎《大人魚姫の城》

05 - 関口光太郎 公開制作《辻辻モンスターズ》

街区の交差点「辻」に出現するガムテープの巨人や恐竜と遊ぼう。

実施日：11/11（土）、11/25（土）、12/9（土）、1/13（土）

会場：市内各所（予定）

06 - キュレーターがガイドする「前橋アートトリップ」

本展のキュレーターチームがアートを通して見た前橋の魅力をご案内。

実施日：期間中の隔週日曜 11:00~12:30 会場：まえばしギャラリー、HOWZE ビル、スズラン前橋店、中央通り商店街 他

07 - 白井屋ホテル スペシャルアートツアー（予定）

アートホテルに展示された珠玉の現代アートコレクションを特別公開。

実施日：期間中の隔週火曜 13:30~14:00

会場：白井屋ホテル敷地内



木原共 + Playful 《Deviation Game》 撮影：Aya Kawachi

※上記の会場・実施日は変更になる場合があります。また、この他にもアーティストによるトークや、観賞交流会等を随時企画・実施していきます。更新情報はアーツ前橋のホームページでご確認ください。

[開催概要]

展覧会名 | アーツ前橋 開館 10 周年記念展

ニューホライズン 歴史から未来へ

会期 | 2023 年 10 月 14 日 (土) → 2024 年 2 月 12 日 (月・祝)

会場 | アーツ前橋、白井屋ホテル、まえばしガレリア、HOWZE ビル、スズラン前橋店 他

主催 | New Horizon 展実行委員会、前橋市

助成 | ぐんま芸術文化創造事業、一般社団法人ぐんま食と歴史文化財団

芸術監督 | 南條史生 (実行委員長・アーツ前橋特別館長・前橋市文化芸術戦略顧問)

アーティスト | アンドリュー・ピンクリー、石多未知行/デサイドキット/ザ・フォックス、ザ・フォルクス/ランペイジズ・プロダクション、井田幸昌、岡田菜美、オラファー・エリアソン、川内理香子、木原共、五木田智央、蔡國強、ザドック・ベン=デイヴィッド、ジェームズ・タレル、スプツニ子!、関口光太郎、武田鉄平、蜷川実花、袴田京太郎、ハシグチリントロウ、ビル・ヴィオラ、マッド・ドッグ・ジョーンズ、マームとジプシー、松山智一、村田峰紀、山口歴、横山奈美、403architecture [dajiba]、レフィーク・アナドル、WOW (30 組=海外作家 8 カ国 11 人/国内作家 19 人)

前橋市をアートのおふれる街へ！

ふるさと納税のガバメントクラウドファンディングに挑戦中。

本展開催にあたり、アーツ前橋でははじめて「ふるさとチョイス」のクラウドファンディングに挑戦し、「アートのおふれる街・前橋」を皆様と一緒につくりたいと考えています。トップクリエイターの作品を地域の皆さまに届けることはもちろん、前橋以外の都市でも参照できる「アートによる地域再生」の事例にすべく、美術館スタッフ一同、使命感をもって取り組んで参ります。最先端のアートで街を彩るアーツ前橋 開館 10 周年記念展「ニューホライズン 歴史から未来へ」へのあたたかいご支援を、何卒よろしくお願いいたします。

●詳細は右記の QR コードよりご覧ください→



開催情報はアーツ前橋ホームページにて随時更新・公開してまいります。

<https://www.artsmaebashi.jp>

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展実行委員会事務局 (アーツ前橋)
学芸担当 高橋/庭山
●取材・掲載に関するお問い合わせ TEL:027-230-1144
PR担当 酒井/石井 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

●広報画像はこちらより
ダウンロードください



出展作家プロフィール



アンドリュー・ピンクリー／Andrew BINKLEY [アーティスト]

アンドリュー・ピンクリーは他領域にまたがるアーティストである。タイの森の伝統的な仏教の僧侶として数年間を過ごした後、現在はハワイのホノルルを拠点に活動している。修道生活を離れた後は、「六本木アートナイト 2019」(東京)、「ダウンタウン・フィルム・フェスティバル」(ロサンゼルス)、「クイーンズ美術館」(ニューヨーク)、「高雄美術館」(台湾)、「ホノルル・ビエンナーレ」(ハワイ) など国際的な展覧会に出展している。また、坂本龍一+クリストファー・ウィリッツのアルバム・ジャケット・アート (ゴーストリー・インターナショナル) など、数多くのコラボレーションも手がけている。ピンクリーは、イギリスの古城、ポーランドの第二次世界大戦時の防空壕、ホノルル美術館のひび割れた敷地、ジョシュア・ツリー国立公園のハイデザート mountain、4Culture+ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのシアトルのストリートなど、幅広い場所でサイトスペシフィックな作品を展示している。



石多未知行／ISHITA Michiyuki [クリエイティブディレクター、空間演出家]

1974 年生まれ。武蔵野美術大学空間演出学科卒業。映像を光として捉え空間演出をするアーティストとして国内外で活動。2011 年にプロジェクションマッピング協会を設立し、世界最大級の国際大会のプロデュースや普及啓発活動を行う。また東京発の光の祭典「TOKYO LIGHTS」の立ち上げ、波を青く光らせる「NIGHT WAVE」など、注目のプロジェクトを多数手掛ける。



井田幸昌／IDA Yukimasa [画家、現代美術家]

1990 年鳥取県生まれ。2019 年東京藝術大学大学院油画修了。2016 年 CAF 賞にて審査員特別賞受賞。2017 年レオナルド・ディカプリオ財団主催のチャリティオークションに史上最年少参加。絵画のみにとどまらず、彫刻や版画にも取り組み、国内外で発表を続ける。2021 年 Dior とのコラボレーションを発表。2022 年鳥取県文化功労賞受賞。2023 年、自身初の国内美術館巡回展を開催中。(ポートレート撮影: @ogata_photo)



岡田菜美／OKADA Nami [アーティスト]

1991 年群馬県前橋市出身。2016 年多摩美術大学大学院絵画専攻 油画研究領域修了。2018 年より gallery UG 専属アーティストとして東京を拠点に活動。2023 年 NANJO SELECTION vol.2 「いつか見た青い影 / A Whiter Shade of Pale」が開催される。10 月には銀座蔦屋書店 アートウォールにて個展、ニューヨークにて常設展示予定。2022 年は『アートフェア東京』にてソロで発表する他、2021 年には『VOLTA BASEL』や 2020 の『VOLTA NEW YORK』等、欧米のアートフェアにも出品するなど、海外を視野に入れて活動している。



川内理香子／KAWAUCHI Rikako [アーティスト]

1990 年東京都生まれ。多摩美術大学在学中の 2014 年に参加した公募グループ展『CAF ART AWARD2014』で保坂健二郎賞を受賞、15 年に新進アーティストを対象にした公募プログラム『shiseido art egg』に入選し資生堂ギャラリーで個展を開催、shiseido art egg 賞も受賞。22 年には『VOCA 展 2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—』にて大賞の VOCA 賞を受賞、同年ドイツの VAN DER GRINTEN GALERIE にてヨーロッパ圏での初めての個展を開催する。(ポートレート撮影: 野村佐紀子)



木原共／KIHARA Tomo [メディアアーティスト]

新たな問いを人々から引き出す遊びをテーマに、実験的なゲームやインスタレーションの開発を行う。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、オランダのデルフト工科大学院のインタラクティブデザイン科を修了。その後、アムステルダムに拠点を置く研究機関 Waag Futurelab に参加。近年の作品は「アルス・エレクトロニカ STARTS PRIZE」(リンツ/2021年)にノミネートされ、「Victoria & Albert Museum」(ロンドン/2022年)にも展示されている。(ポートレート撮影：Anna Trap)



五木田智央／GOKITA Tomoo [アーティスト]

五木田智央は1969年東京生まれ、同地を拠点に活動。90年代後半に鉛筆、木炭やインクで紙に描いたドローイング作品で注目を集め、2000年に作品集『ランジェリー・レスリング』を出版。ニューヨークでの展覧会を皮切りに、これまで国内外で多数の個展を開催。2012年にDIC川村記念美術館にて開催された「抽象と形態：何処までも顕れないもの」展に参加し、2014年には同美術館にて個展「THE GREAT CIRCUS」を開催。近年の個展に「PEEKABOO」東京オペラシティアートギャラリー(2018年)、「Get Down」ダラス・コンテンポラリー(2021年)などがある。(ポート撮影：高橋健治)



ザドック・ベン＝デイヴィッド／Zadok BEN-DAVID [アーティスト]

1949年イエメン生まれ、同年イスラエルに移住。ロンドンのセント・マーチンズ美術学校で上級彫刻科を卒業し、現在はロンドンとポルトガルを拠点に活動。彫刻、インスタレーション、パブリック・アート作品で知られるベン＝デイヴィッドは、人間の本質と進化に関連するテーマを探究している。彼の作品は詩的で幻想的と称され、繊細なミニチュアと巨大なインスタレーションの間で揺れ動く。1988年にイスラエル代表として「ヴェネチア・ビエンナーレ」に参加したほか、ポルトガル(2022年)、オランダ(2020年)、ロシア(2019年)、韓国(2010年)、オーストリア(2009年)、シンガポール(2008年)、オランダ(2007年)など、世界各地のビエンナーレに参加している。「ポルトガル国際ビエンナーレ」(2007年)でのグランデ・ビエンナーレ・プレミオ賞、テルアビブ美術館彫刻賞(2005年)など、数々の賞を受賞。(ポートレート撮影：Celine Avrahami)



スプツニ子！／Sputniko! [アーティスト]

英国ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を卒業後、英国王立芸術学院(RCA)デザイン・インタラクティブ専攻修士課程を修了。RCA在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。2013年よりマサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ 助教授に就任し Design Fiction Group を率いた。2017年世界経済フォーラム「ヤンググローバルリーダー」、2019年TEDフェローに選出。2018年に東北新社フェロー、2022年株式会社デジタルガレージ社外取締役就任。東京藝術大学デザイン科准教授。株式会社Cradle CEO。



関口光太郎／SEKIGUCHI Kotaro [新聞紙×ガムテープアーティスト]

1983年群馬県前橋市生まれ。小学3年生の夏休みに、初めて新聞紙とガムテープを使ってステゴサウルスを作る。多摩美術大学彫刻科の卒業制作で6メートルの寺院を制作し、技法を確立。第15回岡本太郎現代芸術賞受賞(2012年)、「In BEPPU」(2019年)招聘。現在まで、旭出学園(特別支援学校)勤務の傍ら、全国各地で制作・展示やワークショップを行う。(ポートレート撮影：森英嗣)



武田鉄平／TAKEDA Teppei [画家]

1978年山形市生まれ。2001年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。
2016年山形市 KUGURU にて初個展「『絵画と絵画、その絵画とその絵画』開催。2018年山形ビエンナーレ参加、2019年ユナイテッドヴァガボンズより作品集「Paintings of Painting」を刊行、東京・MAHO KUBOTA GALLERY と森岡書店にて作品集と同タイトルの個展を同時開催。2022年にMAHO KUBOTA GALLERY にて「近作展」。作品はARARIO MUSEUM(ソウル)、スマイルズ・コレクション、桶田コレクション、ユナイテッドアローズ、前澤友作コレクション等に収蔵されている。



蜷川実花／NINAGAWA Mika [写真家、映画監督]

写真を中心として、映画、映像、空間インスタレーションも多く手掛ける。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010年Rizzoli N.Y.から写真集を出版。『ヘルタースケルター』(2012)、『Diner ダイナー』(2019)はじめ長編映画を5作、Netflix オリジナルドラマ『FOLLOWERS』を監督。最新写真集に『花、瞬光光』。クリエイティブチーム「EiM: Eternity in a Moment」の一員としても活動している。



袴田京太郎／HAKAMADA Kyotaro [彫刻家]

1963年 静岡県生まれ。1987年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。1994年文化庁芸術家在外研修員として渡米。1996年五島記念文化賞美術新人賞受賞による海外研修としてチベット他に滞在。2012年 第22回タカシマヤ美術賞受賞。主な個展、静岡市美術館(2011年)、MA2ギャラリー (2012,16,20年)、平塚市美術館(2014年)、カスヤの森現代美術館(2019年)、富山県美術館 TAD ギャラリー (2023年) など。武蔵野美術大学教授。



ハシグチリントロウ／HASHIGUCHI Lintalow [書家、WLIGHTER]

1985年長崎県生まれ。2004年福岡教育大学書道課程に入学。10代の頃 PUNK に出会い、創作活動の原点となる。伝統的な書を学ぶも、戦後の様々な前衛芸術運動、特に井上有一の「書は万人の芸術」という考えに触発され「日常を生きる為のエネルギー」として書を展開。日々生活の中で閃くインスピレーションを断片的な言葉をノートに書き付けている。制作は、高価な毛筆代わりにタオルを用い、パンクロックを聞きながら一気に書き上げる。2015年に井上有一の顕彰展「天作会」メンバーに抜擢。2018年「ART SHODO TOKYO」に選出、注目される。アートフェア東京 2019 出展、「LUMINE meets ART AWARD 2018-2019」グランプリ受賞、シェル美術賞 2019 入選。ARTISTS' FAIR KYOTO 2020 へ選出。2023年渋谷パルコにて個展開催「so many life, so many death」書籍出版。(ポートレート撮影：永田峻)



藤田貴大／FUJITA Takahiro [演劇作家]

マームとジブシー主宰。1985年4月前橋市生まれ。北海道伊達市出身。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。07年マームとジブシーを旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当する。作品を象徴するシーンを幾度も繰り返す“リフレイン”の手法で注目を集める。11年6月-8月にかけて発表した三連作《かえりの合図、まったた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。》で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。以降、様々な分野の作家との共作を積極的に行うと同時に、演劇経験を問わず様々な年代との創作にも意欲的に取り組む。13年、15年に太平洋戦争末期の沖縄戦に動員された少女たちに着想を得て創作された今日マチ子の漫画『cocoon』を舞台化。同作で2016年第23回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。演劇作品以外でもエッセイや小説、共作漫画の発表など活動は多岐に渡る。(ポートレート撮影：井上佐由紀)



松山智一／MATSUYAMA Tomokazu [アーティスト]

上智大学卒業後 2002 年渡米。NY Pratt Institute を首席で卒業。ペインティングを中心に彫刻やインスタレーションも手がける。作品には、東洋と西洋、古代と現代、具象と抽象といった両極の要素が見られ、これは日本とアメリカの両国で育った松山自身の経験や情報化の中で移ろいゆく現代社会が反映されている。世界各地のギャラリー、美術館、大学施設等にて展覧会を多数開催。また、ロサンゼルス・カウンティ美術館、サンフランシスコアジア美術館、マイアミ・ペレス美術館、龍美術館、宝龍美術館、Microsoft コレクション、香港の K11 Art Foundation、ドバイ首長国の王室コレクション等に作品が収蔵されている。2012 年から 2017 年 5 月までの 5 年間、School of Visual Arts (SVA) の非常勤教授を勤めた。2020 年、JR 新宿駅東口広場のアートをスペースを監修、中心に 7m の巨大彫刻を制作する。2021 年には NHK「日曜美術館」で特集が組まれ、グローバルな活動と重層的な作品が高く評価される。現在はブルックリン・グリーンポイントにスタジオを構える。



MAD DOG JONES／マッド・ドッグ・ジョーンズ [アーティスト]

本名ミーシャ・ダウバックは、カナダのオンタリオ州サンダーベイ出身のマルチアーティストです。DIESEL ART GALLERY (渋谷) 個展「AFTERLIFE」、Crash + Burn シリーズ、Replicator シリーズ、アート・パーゼルでの展示、Mercedes F1 Team の車アート、北京の UCCA Center for Contemporary Art で開催された世界初となる大規模な NFT アート展ではヘッドライナーとして成功するなど、一躍有名になった MDJ。



村田峰紀／MURATA Mineki [パフォーマンスアーティスト]

1979 年群馬県生まれ。前橋市在住。2005 年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2016 Ongoing Collective、2017 年 身体の人たち、2018 年 Responding Performance Art Initiative に在籍し活動している。(ポートレート撮影：東間嶺)



山口歴／YAMAGUCHI Meguru [美術家]

1984 年東京生まれ。2007 年渡米、ニューヨーク・ブルックリンを拠点に活動している現代アーティスト。絵画表現における基本的要素「筆致／ブラシストローク」の持つ可能性を追究した様々な作品群を展開。代表作品群"OUT OF BOUNDS"では「固定概念・ルール・国境・境界線の越境、絵画の拡張」というコンセプトのもと、筆致の形状自体をそのまま実体化する独自の手法によって、ダイナミックで立体的な作品を制作し続けている。(ポートレート写真：©2022 ANDREW ACACIO, MEGURU YAMAGUCHI, GOLD WOOD ART WORKS)



横山奈美/YOKOYAMA Nami [画家]

1986年岐阜県生まれ。2012年愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 油画領域修了。物を見て描くという行為を通し、私達や物に与えられた役割や制度を再考する。主な展覧会に、「Before/After」(広島市現代美術館、2023年)、「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」(森美術館、2022年-2023年)、「開館 25周年記念コレクション展 VISION Part1 光について / 光をともして」(豊田市美術館、2020年)などがある。(ポートレート撮影：ただ(ゆかい))



403architecture [dajiba]/ヨンマルサン・アーキテクチャー・ダジバ

[建築コレクティブ]

2011年に彌田徹(やだ・とおる)、辻琢磨(つじ・たくま)、橋本建史(はしもと・たけし)によって静岡県浜松市で設立。主な展覧会に、金沢 21世紀美術館「3.11 以後の建築」(2011年)、第15回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展「en[縁]:アート・オブ・ネクサス」(2016年)、「あいちトリエンナーレ 2016」(2016年)、スイス建築博物館「MAKE DO WITH NOW」(2022年)など。(ポートレート撮影：木暮伸也)



レフィーク・アナドル/Refik ANADOL [アーティスト]

1985年トルコ・イスタンブール生まれ。国際的に有名なメディア・アーティスト、ディレクターであり、データと機械知能を用いた美学の先駆者である。アナドルのサイトスペシフィックなデータ・ペインティングや彫刻、オーディオ/ビジュアル・ライブ・パフォーマンス、没入型インスタレーションは様々な形をとりながら、物理的世界との関わり、集合的体験、パブリック・アート、分散型ネットワーク、AIの創造的可能性を再考するよう促している。作品は、MoMAやポンピドーセンター・メッツ、ZKMなど世界中の美術館で展示されており、数々の賞を受賞している。

WOW

WOW/ワウ [ビジュアルデザインスタジオ]

東京、仙台、ロンドン、サンフランシスコに拠点を置くビジュアルデザインスタジオ。CMやコンセプト映像など、広告における多様な映像表現から、さまざまな空間におけるインスタレーション映像演出、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスデザインまで、既存のメディアやカテゴリーにとらわれない、幅広いデザインワークをおこなう。

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展 (事務局・アーツ前橋)
学芸担当 高橋/庭山
●取材・掲載に関するお問い合わせ TEL: 027-230-1144
P R 担当 酒井/石井 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

●広報画像はこちらよりダウンロードください
<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>

広報用画像（作品）

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



広報用画像申込書（作品）

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

アーツ前橋 PR 担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像を保存するためのIDとPASSをメールにてお送りいたします。

*画像の使用は本展覧会の広報を目的とする場合に限り、個人のブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

【1】	レフィーク・アナドル 《Living Paintings Immersive Editions: Artificial Realities: Winds of LA / Pacific Ocean / California Landscapes.》 撮影：Joshua White Courtesy of Jeffrey Deitch, New York and Los Angeles.
【2】	アンドリュー・ピンクリー 《Stone Cloud》
【3】	蜷川実花 《残照/Eternity in a Moment》 ©mika ninagawa
【4】	ザドック・ベン＝デイヴィッド 《People I Saw But Never Met》
【5】	WOW の展示予定作品
【6】	山口歴 《MÖBIUS NO. 17》 撮影：© 2021 浦野航気 © 2021 MEGURU YAMAGUCHI, GOLD WOOD ART WORKS
【7】	マームとジプシー 《Light house》 撮影：岡本尚文
【8】	武田鉄平 《絵画のための絵画 044》

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

媒体名：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当名：
所在地： 〒	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	

- 展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展（事務局・アーツ前橋）
学芸担当 高橋/庭山
- 取材・掲載に関するお問い合わせ TEL:027-230-1144
PR担当 酒井/石井 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

- 広報画像はこちらよりダウンロードください
<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>



広報用画像（アーティスト）

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



広報用画像（アーティスト）

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアート前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

アート前橋 PR担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像を保存するためのIDとPASSをメールにてお送りいたします。

*画像の使用は本展覧会の広報を目的とする場合に限り、個人のブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

キャプション・クレジット等	
【1】	レフィーク・アナドル/Refik ANADOL
【2】	井田幸昌/IDA Yukimasa 撮影:@ogata_photo
【3】	川内理香子/KAWAUCHI Rikako 撮影:野村佐紀子
【4】	ザドック・ベン=デイヴィッド/Zadok BEN-DAVID 撮影:Celine Avrahami
【5】	蛭川実花/NINAGAWA Mika
【6】	山口歴/YAMAGUCHI Meguru ©ANDREW ACACIO, MEGURU YAMAGUCHI, GOLD WOOD ART WORKS
【7】	藤田貴大/FUJITA Takahiro 撮影:井上佐由紀
【8】	ハシグチリントロウ/HASHIGUCHI Lintalow 撮影:永田峻
【9】	スプツニ子!/Sputnik!

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

媒体名:	
発行日:	発行元:
貴社名:	
部署名:	担当名:
所在地: 〒	
TEL:	FAX:
E-MAIL:	

- 展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展（事務局・アート前橋）
学芸担当 高橋/庭山
- 取材・掲載に関するお問い合わせ TEL:027-230-1144
PR担当 酒井/石井 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

- 広報画像はこちらよりダウンロードください
<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>

